

P 6 麻黄附子細辛湯の投与にて培養所見が改善した MRSA 尿路感染症の 1 例

○村田幸治^{1, 2, 3}、鈴木信孝⁴、亀井勉^{2, 4}

¹ナースセンターひまわり、²島根難病研究所、³島根医科大学小児科、⁴金沢大学補完代替医療学

【目的】麻黄附子細辛湯は、高齢者や虚弱者の感冒などを主な適応としている。これまで我々は、1/2 服用量の麻黄附子細辛湯の投与が、一定期間の抗菌剤投与にて解熱が認められなかった、高齢者の MRSA や耐性緑膿菌などの耐性菌感染症に対して、発熱や CRP 値の改善に有効であったことを報告してきた。今回、7 日間の minocycline hydrochloride (MINO) 投与にて、培養所見に改善を認めなかった高齢者の MRSA 尿路感染症の患者に、麻黄附子細辛湯（コタロー麻黄附子細辛湯エキスカプセル [NC127]；1 日投与量は 6 カプセル [1200mg]）を 1/2 の服用量で投与し、培養所見が改善した症例を経験したので報告する。

【症例】76 歳女性。49 歳時の脳梗塞発症後より右片麻痺があり、ナーシングセンターひまわり入所時（76 歳時）には、食事摂取時以外はほぼベッド上生活となっていた。入所後に発熱を認め、培養を含めた精査の結果、セラチア菌による尿路感染症と診断し、cefcapene pivoxil (CFPN-PI)、ofloxacin (OFLX) を各 1 週間、計 2 週間投与し、尿培養にてセラチア菌陰性を確認後、投薬を一旦終了した。その 2 週間後から、発熱はなかったが、尿混濁を認めたため、検尿・尿沈査にて尿路感染症の再発と判断し、CFPN-PI の投与を開始した。治療開始後に尿培養にて MRSA (3+) が判明し、minocycline hydrochloride (MINO) の 7 日間投与にて尿培養所見は改善しなかったため、麻黄附子細辛湯の投与を開始した。経過中に発熱を認めなかったため、尿培養を行いながら、麻黄附子細辛湯を継続し、9 週間後の尿培養で MRSA 陰性を確認後、投薬を終了した。しかし、麻黄附子細辛湯を終了後、2 週間後の尿培養で MRSA の再出現を認めた。

【結論】介護老人保健施設などに入所中の高齢者では菌交代現象による耐性菌感染症も少なくない。今回の症例から、発熱などの臨床症状が乏しい MRSA などの尿路感染症でも、麻黄附子細辛湯が有効である可能性が考えられた。